

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 5月23日

【評価実施概要】

事業所番号	270201577		
法人名	社会福祉法人津軽富士見会		
事業所名	グループホーム鬼沢		
所在地 (電話番号)	〒036-1205 青森県弘前市大字鬼沢字山ノ越249 (電話) 0172-99-5002		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成20年3月21日	評価確定日	平成20年5月23日

【情報提供票より】(平成 20年 3月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年 2月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 11人, 非常勤	人, 常勤換算 6.05人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	9,000 円	その他の経費(月額)	3,000 円
敷金	有() 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(3月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名
要介護3	3 名	要介護4	0 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢 平均	80.5 歳	最低	71 歳
		最高	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人元秀会弘前小野病院、藤田歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム内のホールは天窓からの光も入りとても明るく、周りのりんご畑や岩木山も眺められとても美しい景色がみられる。散歩するにもとてもよい環境にある。市街地も近く、ドライブ・買い物・通院等にも便利な立地条件にある。同じ敷地内には特別養護老人ホーム、デイサービスも併設されておりグループホーム以外の職員や利用者との交流もみられている。また内部、外部の研修や勉強会も充実されており常に職員のレベルアップに努めている。職員のチームワークもよく入居者、家族の意見を取り入れサービスの向上に努めているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回評価では事故報告書に再発防止策がはっきり講じられていないという課題があった。今回は事故報告書に誰がみても分かりやすく記入されており、なぜおきたのか、どうすれば良いかについて職員みんなで話し合いが行われ具体的な内容が記入され、再発防止につとめられている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は管理者を中心に全職員で行われており、評価結果を受け入れて見直しをし、サービスの質の向上に向け取り組んでいる。結果をもとに職員での話し合いがみられる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は定期的開催されており、サービスの向上に活かす努力がされている。家族・市の担当者・民生委員・地域の方などが参加され、その場で相談や意見交換もなされている。また家族、地域の方に認知症・感染症などについても説明している。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>家族の面会時に日頃の様子を伝えたり、電話や手紙での報告もなされている。ホーム便りも年2回出されている。運営推進会議で家族へ相談、意見を聞く場も設けており職員は家族に何でも言ってもらえる雰囲気づくりにも努めている。現在は検討中だがホーム便りも年3回に増やす予定もあるので期待したい。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会の行事に参加したり、小学校や保育園の慰問等にも参加したり、地域や地域住民との交流がみられる。今後も運営推進会議を通してますますの交流の場を増やしていくことを期待したい。</p>

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者中心となり、全職員で話し合い理念がつけられている。また入居者、家族との関係を大切にしたい理念である。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送り時に職員で理念の確認をされている。新しく来た職員にも理念の説明をし理解されている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	運営推進会議や地域行事、町内会議にも参加されており、また散歩の際に地域の方との交流もみられている。地域の小学校や保育園の慰問、行事等にも参加されている。また運営推進会議で地域の方に認知症についての説明等もされており、認知症の普及活動に意欲的である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>全職員で話し合いされ自己評価されている。外部評価の結果をもとに職員で話し合い、見直しされ改善もなされている。職員の意識改善にもなっている。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヵ月に1度、家族、地域の代表の方に報告され定期的に開催されている。また市の担当者や民生委員の方も参加されている。家族、地域との連携が深められている。参加出来ない家族には、話し合いの結果をお知らせしている。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の担当者の方も運営推進会議に参加されており、その場で管理者は相談したり、されたりしている。また電話等でも連携が図られている。運営推進会議録を市役所へ渡している。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在利用されている方はいないが、管理者は職員に制度について説明し、職員も理解している。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>管理者は日頃から職員の言葉遣いや態度に気をつけている。虐待についての研修会も行われ、そのような事を起こさないよう職員も理解されている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時に家族、利用者に重要事項について説明している。また、ホーム内にも掲示しており、いつでも聞かれたときには説明もし、十分に納得してもらう体制がとられている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の面会時に入居者の日々の暮らしの様子等を伝えている。また体調変化時にも早急に連絡をとっている。金銭についても1ヵ月の出納と領収書の写しを送りお知らせしている。また、年2回のホーム便りも作り送られている。</p>		<p>ホーム便りの発行を年3回に増やす事を検討中とのことなので今後に期待したい。</p>
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議で参加された家族へ意見を聞く場を設けている。また玄関にも意見箱を設置している。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動があっても、出来るだけ馴染みの職員が対応出来るよう同法人内の異動で配慮されている。日頃から母体施設と交流を多く持たれており、入居者・職員は馴染み深くなっており、入居者のダメージを防いでいる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回、母体施設との合同での園内研修がある。また、外部の研修にも同じ職員でなく全職員が参加できる体制がとられている。グループホーム内での勉強会も行われている。		
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部での研修の場にて他施設の方との情報交換や現状の問題についても話されており交流が図られている。また、電話等でも連絡し、連携が密にとられている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者が安心して生活出来るよう、家族と話し合い解決されている。入居者が他入居者と交流がスムーズに行えるよう職員がこまめに関わり交流が図れるよう工夫されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者から郷土料理や畑作りの作り方を職員が教わったり、聞いたりして共に支えあう関係を築いている。		


外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1.一人ひとりの把握</p>					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の暮らしや行事、余暇活動を通してコミュニケーションを図り、軽度、重度にかかわらず入居者に対し今後の生活に対する意向や思いを聞き入れる努力がなされている。</p>		
<p>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者や家族に面会時に要望や意見を頂いている。それを計画に反映させ、職員みんなで話し合って計画を作成している。</p>		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>期間に応じ定期的に計画の見直しと評価が行われている。また状態の変化が見られた時は、その都度家族の意見も取り入れ、職員全員で話し合い見直しを行っている。</p>		
<p>3.多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>母体施設とも協力しながら本人や家族の要望を聞き通院介助や外出支援もされている。本人や家族の要望を臨機応変に対応されている。</p>		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居前からのかかりつけ医を変えず定期的に受診できる体制がとられている。また母体施設の嘱託医や、看護師に医療面の指導や協力を受けれる体制もとられている。</p>		
22	44	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居後に状態変化された場合は状態に応じ、併設の特養へ異動する方針で家族に説明され同意を得ている。決まった方針については全職員にも周知している。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員は入居者に対し相手の気持ちを考え、言葉使いや対応に気遣いをしている。個人情報の保護についても配慮がなされている。</p>		
24	49	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者一人ひとりのペースが違うので、一人ひとりの希望や要望を聞き入れている。その日を楽しく心地よく生活できるよう支援されている。</p>		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>職員と入居者が一緒にテーブルで食事され、食事中は音楽も流れて楽しく食事できるように支援がなされている。また入居者もテーブル拭きや後片付けも役割ができています。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>週3回の入浴だが、その日の体調により清拭や足浴も行われている。また夏やドライブ外出後には入浴の回数を増やすなどの支援もおこなわれている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>入居者や家族からの情報をもとに入居者一人ひとりの生活歴の把握に努めている。掃除や洗濯たたみ、テーブル拭きをすることで本人に意欲をもたせるよう支援がなされている。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>その日の天候や入居者の希望を聞き、散歩に出かけたり、ドライブや買い物にも出かけたりしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29	62	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>母体施設と合同で身体拘束委員会がつけられており、定期的に勉強会等を行い、全職員が身体拘束防止の理解に努めている。</p>		
30	63	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>日中は鍵をかけていない。散歩等の外出時には職員も一緒に出て、職員は入居者の所在確認をきちんと行っている。</p>		
31	68	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>三ヶ月に1回避難訓練を行っている。年1回は母体施設と合同による避難訓練も行われており災害時は母体から駆けつける体制ができています。運営推進会議でもお知らせされており、地域の方の協力も依頼している。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>献立は母体施設の栄養士が作成しており栄養バランスがとれている。食事量、水分量も記録されており、栄養摂取が不足な方には別な物を提供している。またその方にあった食事(お粥など)も提供している。</p>		
33	75	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>母体施設嘱託医、看護師の指導にそって感染症の予防、対応が行われている。玄関にも消毒する物が設置されており、職員全員が感染症予防に努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
		居心地のよい共用空間づくり			
34	78	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内のみんなが集まるホール内は天窓等から外の光も入りとても明るい雰囲気であり、ソファや畳もあり誰でもくつろげる場になっている。またテレビや音楽などの音量もうるさくなくちょうど良い感じである。廊下やホールには職員、入居者で作った作品や写真なども飾られていてみんなが自由にくつろいでいた。		
35	80	居心地よく過ごせる居室の配慮			
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は今まで本人が使い慣れたタンスや思いがある物が持ち込まれており、家庭で生活しているかのように安心して過ごせる支援がなされている。		

 は、重点項目。